平成二十六年九月十一日　　国賊は討て！

敬天千里眼情報

発行者　敬天新聞社
〒335-0013
埼玉県戸田市喜沢1-28-43
TEL 048-229-0007
FAX 048-242-5858

知性も理性も感じられない地方議員の体たらく
水戸市議会議員・松本勝久先生のご都合主義①

国政では、憲法と国防を巡る安全保障、原発を含むエネルギー政策、景気経済の立て直し、被災地の復興、北朝鮮による拉致被害者を救済すべく日朝交渉など、重大な懸案が山積しており、国会議員の先生には一層奮励努力して頂くことを願うばかりだ。

私達の生活に、より密接な問題を抱える県政や市政に携わる地方議員も、様々な問題を抱え一時の猶予も無い筈だ。

ところが、この頃、地方行政に携る者、地方議員の体たらくが目に余る。

東京都議会で塩村文夏議員が質問中に「早く結婚したほうがいいんじゃないか」などとセクハラ的な内容の野次を浴びた女性蔑視ヤジ問題や、兵庫県議会議員であった野々村竜太郎が、政務活動費の不正使用を問われ、泣きわめき取り乱す前代未聞の会見を開いたこと、同じく兵庫県議の桐月一邦県議が、所属する会派の宴会で「女性は金で買うもの」と発言し、同席した女性県議に抱きついたというニュースは記憶に新しい。

知性も理性も感じさせない低レベルな問題ばかりで、こんな奴らが私達の生活の行く末を担っている議員であるとは情けない限りだ。

政務活動費の私的流用や視察旅行とは名ばかりの慰安旅行にゴルフコンペ、地元業者との癒着による開発予定地の用地買い漁りや公共事業の斡旋など、国会議員や県議になるより「地方議員に留まっていた方が旨味がある」とは、嘗て当紙の地元（戸田市）で市長を裏から操り、幅を利かせていた重鎮市議（故人）の言葉である。

少子高齢化、増税といった深刻な問題が生活に圧し掛かる中、知性も理性も感じられない馬鹿な議員や血税を食い物にする政治屋は、徹底的に排除しなければならない。

そんな訳で、先達て当紙に寄せられた投書に基づき、心無い一人の議員によって機能不全に陥っているという水戸市政、水戸市議会を調査、追及していくことにしよう。

つづく。